



えきっぶ・好きっぶ・交流ひろば まちで学ぼう

地区の再整備が進められている黒磯駅前通りで、「えきっぶくろいそ」によるイベントが催されました。まちを学校にみたくて、人の交流を生むことをテーマに、古本市やバルーン教室などさまざまな催し物が行われました。

「えきっぶくろいそ」の瀧澤会長は、「今回は多くの人に楽しんでもらえた。今後も色々な催しを開き、多くの人を訪れてくれるよう引き続き取り組みたい」と意気込みを話していました。



いにしえ 古の鉄道跡をたどって ～塩原軌道を知っていますか～

今から約100年前、西那須野から関谷間を鉄道が走っていました。塩原軌道と呼ばれるその鉄道は、最終的には^{がまいしえんち}墓石園地(国道400号がま石トンネル入り口付近)まで延長され、昭和7年まで運行していました。

現在でも線路が通っていた跡が国道400号に沿うように残っています。3月12日に関谷郷土研究会の案内で塩原軌道跡をたどる講座が開かれ、参加した29人が当時の情景に思いを馳せました。



右上・左上：子牛に餌を食わせてあげようと必死ですが、なかなか食べてもらえず苦戦している模様
 左：生まれて2カ月ほどの子牛
 左下：一生懸命引っ張りますが、なかなか思いどおりにいかず大変です
 下：名誉賞を獲得したホルスタイン。立派な体格に圧倒されています



青木農業祭 ～農業のことをもっと知ろう～

青木農業祭が、4月16日青木サッカー場で今年も開催されました。ホルスタインの共進会や、さまざまな模擬店、地元バンドやダンスなどのイベントが行われ、多くの人でにぎわいました。

子牛とふれあえる「牧場ふれあい広場」には、たくさん子どもたちが集まりました。みんな干し草を食わせてあげようと悪戦苦闘。

でも、生まれたばかりの子牛さんたちは、まだミルクしか飲めないんですよ。



開こん記念祭 ～先人の偉業に思いを馳せて～

明治18年に那須疎水が開通するまでの間、荒地であった那須野が原。先人たちの偉業に対する感謝の気持ちを胸に、子どもたちの刻む太鼓のリズムで開こん記念祭がスタートしました。

波立小学校6年生高根^{ひじり}聖さんは、「開拓に関わったひいおじいちゃんを思い出した。僕も次の世代に引き継いでいきたい」と発表しました。

会場内では、ふるさとの味屋台コーナーが設置され、開拓なべや芋串が振る舞われました。



待ちに待った釣りの季節到来

4月3日、塩原温泉郷を流れる箒川で、溪流釣りが解禁となりました。当日は朝5時から、多くの釣り人たちが思い思いの場所で魚との駆け引きを楽しんでいました。

今年はニジマスやイワナなどを解禁期間中2回に分けて放流をする予定で、塩原漁業協同組合の坂内組合長は、「分散放流は初めての試みだが、これにより期間中を通して安定した誘客につながるのではないかと話していました。」



満開の桜を馬上から眺めて ～観桜乗馬～

^{じわとこ}接骨木の地方競馬教養センターが毎年開催している観桜乗馬が4月12日行われました。

春の暖かな日差しの中、同センターの新入生と2年生19人、そして職員がセンターを出発し、千本松の県畜産酪農研究センターを目指しました。研究センターに着くと、新入生たちが先輩の引き馬で乗馬を体験。馬上から満開の桜を楽しみました。

見物に来ていた人は「馬を近くで見るのは初めて。桜も見頃で絵になりますね」と話していました。